

経営学部

令和7年度 文化活動推薦入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営	1	1	1
合計	1	1	1

(2) 本入学試験の目的

本学では、多様な入学試験制度を導入し、受験生に対して幅広く受験の機会を提供しています。そのうちの「文化活動推薦入学試験」とは、高校在学中に文化活動で優れた実績を持ち、人物ともに優秀で本学への入学を強く希望する者を審査・選考することにより、本学部の活性化と文化活動の奨励を目的とする入学制度です。

2. 試験内容・出題の意図

(1) 書類審査

調査書、推薦書、大会成績証明書などの資料で出願資格を充足するかを確認したうえで、志望理由書により、本学部への入学意欲や将来のキャリアの見通しや目標について、しっかり自分の意見が述べられているかを確認しました。

(2) 小論文

小論文では、これまでの経験から培った学びを、本学での専門分野の学びにどのように応用し、大学生活を通じてさらなる成長を遂げようとしているのかを問います。そのため、単に部活動や学業などを「頑張った」ということを述べるのではなく、目標に向かって継続的に努力する力、その過程で直面した課題を乗り越えるための思考力や行動力を発揮したか、さらに自分の経験を客観的に振り返って自身の成長を把握する分析力と、それをもとに未来に繋げる展望力へと発展させているかも重視し出題しています。

(3) 口頭試問

小論文に加えて、約10分間の口頭試問を行いました。口頭試問では、2名の面接担当教員が1名の受験生に対して、事前に提出された志望理由書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

3. 評価のポイント

(1) 小論文

論理的な構成力：

与えられたテーマに対し、論理的な一貫性を持って記述できているか、論の構成が明確であり、主張が説得力を持って展開されているかを評価します。

自己分析の深さ：

努力の過程でどのような困難に直面し、それをどう乗り越えたのか、その経験を通じて具体的にどのような能力や考え方を身につけたのかが、具体的に、かつ深く掘り下げて述べられているかを重視します。表面的な記述ではなく、自身の内面と向き合った考察があるかを評価します。

将来への展望力と具体性：

高校生活での経験から得られた学びを、大学での学びや生活にどのように結びつけようとしているのか、その展望が明確であり、大学でどのようなことに取り組もうとするのかが述べられているかを評価します。単なる「頑張りたい」という意欲だけでなく、どのような科目や活動を通じて成長したいのかが具体的に示されているかが重要です。

表現力・文章力：

自身の考えを正確かつ簡潔に表現できているか、適切な語彙や表現を使用できているか、適切な文字数で記述できているか、また誤字脱字がないかを評価します。段落を適切に変え、誤字脱字がないように記述することも評価の対象とします。

(2) 口頭試問

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

4. 解答状況

自分の経験を踏まえて、具体的な事例を挙げながら答えることができていました。

さらに、今後の取り組みについても、明確な目標を示し、その達成に向けた取り組み方についても説明していました。この小論文では、何が言いたいかわからない文章、自分の意見なののはっきりしない文章、論理的に書けていない文章は、大幅な減点となります。字数不足、字数オーバー、判読できない文字、誤字・脱字も減点の対象です。

5. 次年度の受験生へのアドバイス

小論文は、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりとアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

口頭試問については、覚えた内容を棒読みするのではなく、自分の言葉で、なぜ近畿大学で経営学部なのか、将来の目標のためにどう進んでいきたいのか、これらを自分の中で組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います。

経営学部 令和7年度

スポーツ推薦入学試験、附属スポーツ推薦入学試験

1. 実施状況

本入学試験の目的

「スポーツ推薦（A～C推薦）」は、スポーツの奨励を目的として高等学校在学中において、スポーツに優れた実績をもつ者を対象とし、特別な選抜方法により実施する入学試験です。スポーツに優れた実績をもつ学生を受け入れることで、本学部の一層の活性化を図ることを目的としています。

2. 試験内容・出題の意図

(1) 書類審査

調査書、大会成績証明書、推薦書等で出願資格を充足するかを確認したうえで、志望理由書により、本学部への入学意欲や将来のキャリアの見通しや目標について、しっかり自分の意見が述べられているかを確認しました。

(2) 小論文（※B推薦、C推薦対象）

読売新聞東京朝刊（2022年6月22日付）『[論点スペシャル] スポーツ賭博 どう見る』から、スポーツベッティング解禁を目指す経済産業省の素案に関する識者らの意見等を出題し、60分間で設問への解答を記述するよう求めました。

設問内容は論文内容を正確に読み解く能力を試すもので、識者らの意見を「容認論」と「慎重論」に整理した上で、設問の条件に沿って解答することが要求されました。また、学業面とスポーツ活動面でのあるべき規範意識を記述する問題では、大学での相応しい行動をどの程度具体的に想像できるかも問われました。

(3) 口頭試問

約15分間の口頭試問を行いました。2名の面接担当教員が1名の受験生に対して、事前に提出された志望理由書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

3. 評価のポイント

(1) 小論文（※B推薦、C推薦対象）

小論文試験では、設問文で提示した条件に合わせて論文の内容を整理することを求めました。論文の文章を正確に読み取ることができていること、設問の求める条件をきちんと踏まえて自身の意見を述べていることができていること、指定された文字数の中で重要なポイントを漏らさず、簡潔に整理・表現できていることが評価のポイントでした。規範意識を記述する問題では、論文の内容を踏まえて受験生自身の意見を主張することを求め、自らの考えを、論理立てて説得力をもって提示することができているかどうかを審査しました。

(2) 口頭試問

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

4. 解答状況

小論文（※B 推薦、C 推薦対象）

小論文試験で出題した問1と問2は、多くの受験者がある程度の正答に達していました。問3では、自らの考えを、説得力を持って論理的に展開することができているかどうかで評価に差が生まれました。なお、記述試験では判読できない極端なくせ字や不正確な漢字は減点対象となります。また字数指定がある場合、字数不足や字数オーバーも減点対象になるので注意してください。

5. 次年度の受験生へのアドバイス

小論文については、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

口頭試問については、覚えた内容を棒読みするのはなく、自分の言葉で、なぜ近畿大学で学ぶことを志望するのか、将来の目標のためにどう進んでいきたいのか、これらを自分の中で組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います。

また、スポーツ推薦であっても、経営学部での学びが最優先であることを理解して、対策することが大切です。